

「会員短信 6」

「災」の米寿から「笑」の卒寿へ 飛田正勝

米寿を迎えたこの一年は、手術や定期治療であらゆる科の病院にお世話になりました。「眼科歯科内科に外科に泌尿器科なべてこなして米寿迎える」。凶事はなぜか重なる！  
災いの年！

「妻一本米寿のわれは杖二本たよりに歩く五里の里山」。廃車にして達者になった足と口。

「寝れば起こし起きれば歩けと老いどちに愛の鞭ふる長寿の国は」。美しい国に増えるは粗大ゴミ。

「言うことを聞かぬとパソコン叩く妻数え八十路の老いの手習い」。パソコンは打つもので～す。

「正解は一つではない八十路から西へと歩く地図のない道」。エージングは百人百様！  
「総入れ歯から折々こぼす飯粒を目ざとく叱る耳遠き妻は」。眼科の夫と耳鼻科の妻の小競り合い。

「居酒屋の禁煙席の一合の酒の肴に秋刀魚焼かせる」。血糖値が高い。ドクターストップ！

「八十路越え息災の友大方はカプセルを飲む食前食後に」。俺だけじゃねえんだあ！

「夢に出て『俺の歳まで歩いてみろ』と背中を向ける卒寿の父は」。父は徘徊、子は俳諧。

「老い行けば多病息災今年また一つ増やして聴く百八つ」。生身魂死を手懐けて生き延びる。

「ボランティアの傘寿の妻を送り出し銃後を守る米寿の夫は」。家事に熟達して主夫になり。

「喜寿が傘寿を米寿が卒寿を祝うこゑ盛り上がりゆく歩けの会は」。歩けたと今日に〇する初暦。

今年はまだ少し真面目に滑稽俳句を詠み、千葉県尚歩会の代表として、ますます元気に歩喜隊（あるきたい）！